

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4074500200
法人名	社会福祉法人 南十字福祉会
事業所名	グループホーム福岡 (ユニット名 新館 )
所在地	福岡県福津市上西郷738番地
自己評価作成日	平成22年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれが役割を持って、生き生きと過ごしてほしい。</li> <li>・入居者一人ひとりと向き合い、ご本人・ご家族の希望に沿えるように支援しています。</li> <li>・明るく丁寧な対応・言葉使いを心がけ、笑いのたえないホームに向けて取り組んでいます。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>本館は、平成11年度に福津市の委託を受け開設したホームであり、平成17年度には新館を新設し「笑顔の我が家」「地域と共に生き、楽しく、その人らしく」を理念に掲げ寄り添ったケアに努めている。当ホームは、畑に囲まれた小高い敷地に建ち、見晴らしが良く開放感のある造りとなっている。中庭では、利用者と育てている花が咲き、敷地内の畑では、ジャガイモ・玉ねぎ・なすびなど季節の野菜が植えられ利用者は収穫を楽しみにしている。管理者は職員と共に、利用者一人ひとりにとって「笑顔の我が家」となるよう、利用者・家族の想いを大切にしながら日々のサービスに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を職員全員で作り、各ユニットの玄関付近に掲げ、常に目にし、職務に当たる際の心構えとしている。理念の理解をもっと深め、念頭において実践につなげる。	ホームの理念「笑顔の我が家」に、管理者交代を機に職員全員で考えた「地域と共に生き、楽しく、その人らしく」を加え、日々の生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	建物が高台にあり、周囲に民家が少ない為、なかなか交流の機会が少ない。	近所の畑づくりに来られる地域住民の方と、あいさつを交わしながら畑づくりを教えてもらったり、野菜をもらったりしている。ハーモニカ演奏・日舞・フラダンスのボランティアの訪問もある。今後は、保育園との交流を図ったり、町内行事にも積極的に参加したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市が主催する「認知症啓発事業」等に参加し、実際行っていることなどを地域の方に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、活動状況の報告、又、取り組みについての意見交換を行っている。	法人理事長・理事・管理者・職員・家族代表・市役所高齢者サービス課職員・区長・民生委員の参加で運営推進会議が行われ、運営に関する意見交換がされている。地域との交流を持つため、地域行事一覧表をもらったり、地域に対してホームのイベント参加への呼びかけを行うなど、サービス向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業所の連絡会や運営推進会議にて市職員との協力を図っている。	市が主催する年1回の認知症啓発事業に参加しており、昨年はホーム職員がそこで講演を行った。その結果、ホーム見学者が増え一般市民のグループホームへの理解に繋がっている。キャラバンメイトの会議や地域密着型の連絡会に、管理者が参加し市町村との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が定期的であり、勉強会の中でもとりあげ、理解を深めている。	身体拘束廃止委員会は、法人全体で4ヶ月に1回勉強会をしている。事業所では、月に1回の勉強会にて伝達講習を行い、全職員は身体拘束をしないケアに取り組んでおり玄関の施錠もしていない。今後は、法人全体の勉強会を2～3ヶ月に1回の割合で行う予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束」同様に「高齢者虐待」についても職員全員で学習する機会を設けている。常日頃から意識し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に一度の勉強会を実施しており、その中で年に一度は「権利擁護」「成年後見制度」について全職員で再確認しあえるようにしている。	職員は、勉強会の実施により権利擁護に関する理解が出来ている。現在、成年後見制度を利用している利用者もあり、家族等にも制度についての説明をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者ご本人、又ご家族に対し個別にお話させて頂き、署名・捺印を頂いている。又、重要なお知らせは文書を個別に郵送して、ご連絡も随時受け付けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、年に3回の家族会を行っており、その内容を議事録としてまとめ、閲覧可能な状態にしている。	家族会には、8名～12名と多くの家族が参加され食事や買い物・洗濯などに対してのいろいろな意見や要望が出てくる。「利用者が職員の名前が分からず呼び方に困っている」という意見を受けて、大きめの名札に変更された。また、月の行事予定を教えてくださいとの要望があったので、家族に対して予定表を開示するようになった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティングを少なくとも月に2回は実施しており、職員の意見を聞きながら運営に反映させるように努めている。	業務ミーティング・職員ミーティング・勉強会と、管理者と職員が話し合う機会は月3回設けられており、管理者は職員の意見を運営に反映できるよう努めている。法人代表者は、管理者と話し合う場を設けているが、ホーム職員の意見の十分な反映に至っていない事案が一部見受けられる。	現場の管理者・職員の意見や思いが、できる限り運営に反映される取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績に応じて昇格を考えた時、時間給の方の休みを考慮する等を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢などによって採用の対象から排除されることはない。職員が自身の生活も含めて働きやすいように休暇などについては配慮している。	職員は定年後も非常勤として努めるなど、その能力を發揮できるよう配慮されている。休暇の希望を聞き入れたり、休み時間の確保を徹底させるなど、働きやすいように考慮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	委員会活動や研修に参加することを行なっている。理念にも「その人らしく」と謳っており入居者の人権尊重に心がけている。	年1回の研修には全職員が参加し、人権教育に取り組んでいる。職員から人権に関する質問があると、その都度、管理者が説明し教育・啓発に努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修については希望者又は人選によって参加を勧めている。月に一回の勉強会を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所の連絡会に参加や市が行なうイベントで交流する機会がある。しかし、管理者のみの交流が多いので他の職員まで含めた取り組みを行いたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供前にご本人とゆっくり話すことで思いや困っていることを聴き、又、体験利用ができる機会を設けることで少しでも不安解消につながればと考えている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを聞き、心情に配慮したお話をするように職員全員が気をつけている。困っていること、不安なこと、要望などをしっかりと聞くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のご希望や思いを踏まえ、できる限りの支援をさせて頂いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や調理、花の手入れなど随時して頂けることは一緒にして頂き、互いに学ぶつもりで過ごしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員が話し合いながら、互いにできることを協力しあっている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人のご面会（ホーム内外問わず）は歓迎しており、積極的に支援を続けるように努めている。	絵を書いていた利用者の友人の個展に利用者と一緒に見に行き、利用者の喜びに繋がった。利用者が以前から通っていた教会から2ヶ月に1度の訪問があるので、利用者は心待ちにしている。また、教会への送迎の支援も行うなど、一人ひとりにあわせ大切な関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動や体操などの際には声掛けを行ない、なるべく多くの方が参加できるようにしている。 利用者同士が話をされている時にはトラブルがない様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても相談や支援を行なっていきたいと考えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共に行う中でご本人の希望や意向を聞く、又は感じ取れるように努めている。	入居時にアセスメントを取ることは勿論、日常的に声かけをし、思いや希望、意向の把握に努めアセスメントシートに記載している。自分から表出することが困難な方は、行事やイベントに参加された時の表情や日頃の仕草から思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らし方、環境などを用紙にまとめ、新たに気付いたこと等を書き込むことでその方の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の状態などを毎朝の申し送りやバイタルチェック時の会話などで常に把握するようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には3ヶ月に一度のケアプランの見直しをし、ご本人・ご家族に説明を行ない、現状に即したプランの作成を実施している。	管理者兼計画作成担当者が、3ヶ月に1度アセスメントをし、原案を作り全職員に確認をしている。家族には訪問時や、電話にて意見を聞いている。期間の途中で状態が変わった時はその都度アセスメントをし見直しを行っているが、担当者以外の職員に想いがあるても意見を言いにくい事がある。	計画作成者が原案を作成し、全職員に意見を求める場を設けているが、想いがあるても意見を言い出しにくい事がある。せっかく意見を述べる場が設けられているので、いろいろな角度から自由に意見を述べられると、チームでつくる介護計画がさらに充実したものになると思われる。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテへの詳細な記録や申し送りノートの活用を行ない、情報を共有しながらプランの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズ、要望にいかんして応えるかを考え、今まで行なってきたことにも積極的に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科による診療やボランティアの方によるレクリエーション、民生委員や消防の方の訪問など協力してもらえるように推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望する医療機関に受診し、情報の交換ができるように支援している。	全利用者が在宅時からのかかりつけ医で受診を行っている。受診は原則家族対応だが、たまたま8名の利用者が同じ病院を受診されているので、その病院の受診に関してはホームから車で送迎している。協力医への受診者はいない。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、2名の看護師が在職している。看護全般においても利用者の支援をしている。又、母体施設の看護師や医師の協力も得ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に病院関係者情報の交換を行ない、早期の退院に向け協働している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けてはなるべくご本人やご家族の意向に沿う形で支援をしたいと思っているが、具体的な話までできていない。	契約時に、医療行為が発生した場合は入院してもらおうようお願いしている。家族から「最後まで見て欲しい」と要望は上がっているが、看護体制がまだしっかり整備されていないので、現時点では受け入れが出来ないことを家族に伝えている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備し、全職員に周知は行なっている。勉強会の中で訓練を実施していく予定である。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者まで含めた年2回の総合訓練を実施している。地域との協力体制は呼びかけ中である。	年2回、通報・避難・消火の総合訓練を行っている。そのうち1回は夜間想定で行っている。現在地域の方へ訓練への協力を呼びかけ中である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の思いや人格を尊重し、丁寧で暖かみのある対応を心がけている。	利用者への声かけは丁寧で温かみがあり、一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出やレク活動、行事などでも、ご本人の意向を尋ね、ご本人がしたいと思うことを支援している。自己決定を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、外出をその時の状態などを加味して、利用者のペースで行なえるように気をつけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に2～3回の理美容があるので、ご希望により利用して頂いている。又、希望の美容室や化粧品があるときには送迎を行ったり、購入ができるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく職員と利用者が一緒に準備、片付けをするようにしている。食事は一緒にとっている。	一人ひとりの力を活かし、もやしの根きり・つくしの袴取り・ふきの皮むき等座ったままできる事や、テーブル拭き、下膳等を手伝ってもらっている。食事は検食担当の職員と一緒にテーブルにつき食事をしている。他の職員は各自弁当を持参しカウンターから見守りながら食事をしていて、1体感を感じられなかった。	食事中とても静かで利用者同士また、利用者職員との会話があまり聞かれなかった。職員がカウンター越しで会話もなく見守りながら食事をされることに違和感が感じられた。同じ時間に同じ食堂で食事をされるのであれば、同じテーブルにつき一緒に食事をする等の一考が望まれる。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況のチェックを行なっている。お茶や白湯などを自室でも摂取できるように個別に対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必要に応じて歯磨きの介助や声掛け・誘導を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立を心がけ、その人その人に応じた対応を行っている。	排泄の訴えのない方に対しては、時間誘導や本人の行動を見て声かけのタイミングを見計らう等して、自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指示をもらいながら水分補給や運動を行ない個々に応じた支援をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回(月・水・金)を入浴日としているが、利用者の希望やタイミングに合わせてゆくり入浴できるように支援している。入浴日以外でもご希望があれば入浴は可能である。	通常週3回月、水、金の午後から入浴を行っている。希望があれば入浴日以外の入浴も対応している。入浴を拒否される方は強制せず、気を紛らわせてから本人がその気持ちになったタイミングを計り浴室に誘導し気持ちよく入浴してもらえる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自分のペースで一日を過ごせ、自由に休息ができる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテにそれぞれの薬の一覧表を整備している。看護師に意見をもらいながら服薬の管理を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カードゲームやカラオケ、縁側や別室での会食、畑や中庭の作業、散歩や喫煙など一人ひとり楽しみが持てるように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人が外に行きたい時に外に行けるようにしている。(状況によって職員が付き添いを行なう) 21年度はご家族の協力をもらい、日帰り旅行を行なった。	月1~2回のショッピング、月2~3回の野外レク、季節の花見、希望があった時のホームの畑への散歩、個別の買い物等希望に添って支援をしている。また21年度は家族の協力を得て日帰り旅行を行い、好評だったので今後も計画をしたいと思っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族等の了承があればご本人にお金を所持してもらっており、外出の時に買い物ができるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙(年賀状など)を書いたり、電話をかける際の支援を行なっている。電話の使用はいつでも可能であるが時間帯によっては遠慮して頂くこともある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・食堂・リビングなどゆったりとした広さがあり、縁側からは中庭の花などが楽しめる。 換気や温度、照明の明るさに気をつけている。	玄関、廊下、食堂、広縁などゆったりとした空間があり、いたるところに椅子やソファが置かれ思いおもいに、気のあった利用者同士、また一人で過ごせるように配慮されている。広縁からは中庭に咲いている花を眺められ、室内には季節の花が飾られ居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーにもソファやマッサージチェアを置き、思い思いに過ごせるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使ってきた物を持ってきてもらえるようにご家族へ依頼している。居室にはご本人のご希望のものを置けるようにしている。	それぞれの居室には、思いおもいに飾りケースや、椅子、テーブル、冷蔵庫、鏡台、洗濯機等が持ち込まれたり、季節の花が飾られたりとそれぞれ好みに合わせた居室作りがされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り自分でして頂くことをすすめ、失敗や混乱があっても過剰に反応せず、できないからと排除するのではなく、どう支援していくかを職員は考えています。		